

地域医療の現場から

地域完結型医療、専門医療を推進し 住民の負託に応えられる病院に

阿蘇医療センター

病院事業管理者兼院長 甲斐 豊



急性期の患者受け入れが困難な 阿蘇医療圏の現状

阿蘇医療センターは、平成26年8月6日に阿蘇駅前(旧阿蘇中学校跡地)に新築移転し、名称も「阿蘇市国民健康保険阿蘇中央病院」から改称して、リニューアルオープンいたしました。ここで、阿蘇医療圏の現状と、新病院の取り組みについてご紹介させていただきます。

阿蘇医療圏は、熊本県内の医療圏域の中で、人口当たりの診療所数、病床数、医師数が最も少ない医療圏であり、逆に医療圏域の有する面積は熊本県内で最も広いエリアをカバーしなければならないという特徴があります。このような厳しい医療環境の中で、地域住民に対して安心・安全な医療を提供していくことの難しさを、阿蘇医療圏内で活動されている多くの医療関係者が痛感してこられました。

また、阿蘇郡市内の各救急病院の受け入れ態勢が十分でなく、阿蘇郡市で発生した救急患者の多くが熊本市内の病院に搬送されているのが現状で、平成22年のデータでは、阿蘇医療圏内で発生した年間2,300件の救急搬送依頼のうち、阿蘇郡市の管内病院に入院した患者は60%で、管外に流出した患者が40%の割合でした。さらに、脳血管障害の患者になると、年間300人の搬送依頼があり、管外流出の割合が60%に上昇し、心臓血管領域の患者も同様に60%の患者が管外に流出していました。このように、多くの脳卒中および急性冠症候群の患者が阿蘇医療圏外に搬送され治療を受けているのが現状で、これら救急患者を熊本市内まで搬送すると、往復約3時間は救急車と救急救命士が不在になることも指摘されてきました。これは熊本県に限ったことではありませんが、このような依存現象は熊本市内の救急医療機関への負担を大きくし、本来の機能を阻害し医療関係者の過労による疲弊を招くなどの弊害も問題視されています。

🏥 病院の概要

- 設立年月：昭和25年
- 許可病床数：124床（感染症4床）
- 入院基本料：15対1
- 職員数：109人（常勤職員）
（再掲）医師4人、看護師68人
（平成26年8月1日現在）

遠隔診断など救急医療体制を強化

そこで、脳卒中や急性心筋梗塞の救急医療体制の強化や、地域医療体制の充実を図るといふ目的で、平成23年4月に熊本県により脳卒中・急性冠症候群医療連携寄附講座が開設されました。この寄附講座には、脳神経外科、神経内科、循環器科、リハビリ科が所属し、各担当医が曜日別に、阿蘇中央病院の外来と当直を担当し、専門医の立場から新たな医療資源の投入が開始されました。

本講座の新しい取り組みとして、阿蘇医療圏内で急性期脳梗塞患者に対するt-PA治療（血栓溶解療法）が行えるような体制を構築しました。脳卒中専門医が常勤している熊本大学医学部附属病院と専門医不在の阿蘇中央病院の間を、IT機器を用いて遠隔画像診断システムでつなぐことでの確な治療方針の決定ができるための仕組みづくりを行い、遠隔画像診断システムに基づくt-PA治療が実施可能な環境を整備しました。t-PA治療可能と判断されると、阿蘇中央病院でt-PA（血栓溶解剤）を投与開始し、点滴を行っている時間（約1時間）を利用して、日中はヘリコプターで、夜間または天候不良時は救急車で、熊本大学医学部附属病院に患者を搬送するdrip&ship方式という最先端の医療の仕組みを立ち上げました。この治療体制を平成24年6月から稼働したところ、一年間で15例のt-PAモード患者が阿蘇中央病院に搬送され、このうち6例がt-PA治療を受けることができ、神経症状の改善を得ることができました。

この先進的治療モデルがさらに発展し、平成26年7月から、熊本県内の複数の医療機関が連携して、多施設間における遠隔診断に基づく脳卒中医療がスタートしました。

地域住民、関係機関に「信頼と責任」で応えられる病院に

当院は、平成26年4月から地方公営企業法の全部適用（全適）に移行し、人事・給与・予算編成などの権限が阿蘇市長から病院事業管理者に移譲されることになりました。今後、病院独自で新病院の体制を決定することが可能となり、新しい医療機器の導入や必要な人員の配置が柔軟にしかも迅速に行えるようになると考えています。

建物を新しくしていただいても、その中身が変わらなければ、住民の方々の負託に応えることはできません。そこで、新病院の目標を「信頼と責任」として掲げました。阿蘇の住民の方々、阿蘇郡市医師会・歯科医師会・薬剤師会の諸先生方、地域医療機関、消防機関、社会福祉関連施設などから「信頼」される医療の提供と、地域中核医療機関としての「責任」を持つことを目指します。具体的には、次に掲げる項目を新たな方向性として、新病院と関係諸機関が一体となって、より質の高い医療提供を推進していけたらと考えております。



休憩用ゾーンから見た中庭

(1)救急医療体制の充実

- 二次救急医療体制の確保（24時間の受け入れ態勢の強化、小児救急対応）
- 災害拠点病院としての機能整備（D-MAT体制の構築）
- 敷地内ヘリポートの活用

(2)地域完結型医療の推進

- 阿蘇郡市医師会・歯科医師会・薬剤師会、地域医療機関・関連施設との連携強化
- 地域医療連携システムの構築（阿蘇地域病診連携室の立ち上げ）
- 開放型病床・外来の開設
- 紹介元への患者依頼の徹底

- (3)救急疾患（脳疾患、心疾患）に対する急性期医療の体制整備・充実
 - 脳卒中遠隔診断システムの充実（t-PA治療）
 - 急性冠症候群の治療実施（カテーテル治療）
- (4)検診業務の充実
 - がん、生活習慣病の予防や早期発見
 - 無呼吸症候群のスクリーニング
 - 人間ドックの充実、脳ドックの新設
- (5)阿蘇から発信する新しい試み
 - 地域医療機関との患者・画像データの共有化の構築（ひとりいちカルテ）
 - 病理診断の遠隔診断（当院と熊大病院病理部）
- (6)新しい医療設備の効果的活用
 - 血管撮影装置（バイプレーン）
 - MRI（1.5T）
 - CT（80列）
- (7)若手医師の研修受け入れ
 - 熊本県地域枠の初期研修受け入れ体制の充実



X線循環器診断システム



MRI装置（1.5テスラ）

阿蘇医療圏内に、救急患者を24時間受け入れ治療ができる体制を構築し、地域完結型医療を実現させます。また、専門医療を提供することで、病病連携・病診連携の構築を図ります。どうか新生「阿蘇医療センター」に期待していただき、また厳しいご意見も賜り、新病院へのご支援、ご指導をよろしくお願いいたします。